

喜多流

第55回 青年能



籾 高林 昌司  
杜若 金子 龍晟

令和6年 5月25日(土)  
13:00開演(12:00開場)

矢来能楽堂

主催:公益財団法人十四世六平太記念財団  
協力:一般社団法人喜多流職分会

チケットご購入のご案内 発売日:3月24日(日)

一般前売券4,500円(当日券5,000円)/学生前売券2,000円(当日券2,500円)

※25歳以下、要学生証提示 全席自由席

会場・矢来能楽堂 東京都新宿区矢来町60番地 TEL03-3268-7311

公演のお問い合わせ・公益財団法人十四世六平太記念財団 TEL03-3491-8813

・インターネット 発売日:3月24日(日) 10:00~

喜多能楽堂ホームページ <http://kita-noh.com>

(24時間対応、要登録・無料)

【お受け取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。ご予約の際クレジットカードで先にお支払いを済ませていただくことも可能です。

・電話予約

発売日:3月25日(月) 10:00~

喜多能楽堂事務局 TEL. 03-3491-8813

(午前10:00~午後6:00 休館日あり)

【お受け取り・お支払い】

①セブンイレブン

ご予約の際画面に表示された番号をレジにご提示の上チケットをお受け取りください。お支払いは現金またはクレジットカードをご利用いただけます。

②郵送

チケット代金と手数料を指定の銀行口座にお振り込みください。入金確認後、簡易書留にてチケットをお届けいたします。

・各同人でもチケットを受付しております。

※お受け取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。

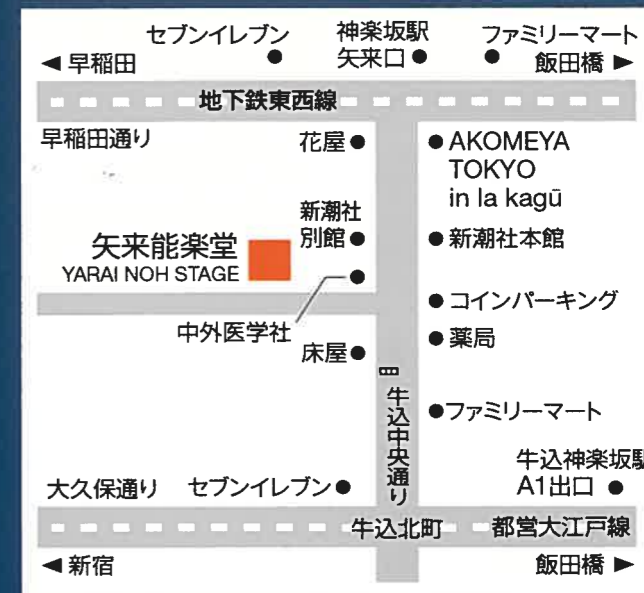
ご予約の際ご案内致します。

※ご予約いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

● 次回喜多流青年能予告

令和6年9月7日(土) 13時始  
矢来能楽堂

三輪 狩野祐一  
熊坂 谷 友矩



地下鉄東西線神楽坂駅下車 矢来口より徒歩2分  
都営大江戸線牛込神楽坂駅 A1出口より徒歩5分  
駐車場はございません。近隣のコイン駐車場をご利用ください。

※ご注意

- ・公演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はお断りいたします。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真ビデオ撮影、録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光が出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・お席を離れる場合は貴重品お手回り品にご注意ください。盗難紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

矢来能楽堂

<http://yarai-nohgakudo.com/>



番組

仕舞  
鵜之段 狩野祐一  
笠之段 谷友矩

金子龍晟  
佐藤寛泰  
塩津圭介  
佐藤陽

後シテ・梶原景季の霊  
前シテ・里人  
高林昌司

能 箆

ワキ・旅僧 村瀬 提

間・生田の里人 山本泰太郎

大鼓 佃 良太郎  
小鼓 森 貴史  
熊本俊太郎

後見 高林呻二  
狩野祐一

地謡 谷友矩 大島輝久  
友枝真也 金子敬一郎  
佐藤陽友枝 雄人

休憩二十分

狂言  
蚊相撲  
シテ・大名 山本凜太郎

アド・太郎冠者 山本則孝  
アド・蚊の精 山本則秀

休憩十分

シテ・里女(杜若の精) 金子龍晟  
能 杜若  
ワキ・旅僧 福王和幸

大鼓 大倉慶乃助 太鼓 梶谷英樹  
小鼓 清水和音 笛 小野寺竜一

後見 栗谷浩之  
谷友矩

地謡 狩野祐一 佐々木多門  
塩津圭介 狩野了  
佐藤寛泰 内田成信

附祝言

終了予定 午後五時頃

箆(えびら)

九州から上京途中の旅僧が生田の森に着くと、梅の花が美しく咲いていた。そこへ男が現れ箆の梅という名前の木だと教える。男は源平の合戦の源氏方、若武者梶原源太景季がこの梅枝を笠印の代わりに箆に挿し手柄を立てたことからその名になったのだと言い、一ノ谷の合戦の様子を詳しく語った。そして男は梶原源太景季の霊だと名乗り姿を消す。

その夜、僧が木陰に仮寝すると、若武者の景季の霊が箆に梅の花を挿した姿で現れる。修羅道の苦しみを見せ、また一ノ谷の合戦で梅を箆に挿して戦った様子を再現すると僧に甲いを頼み落花の中へと消えていく。

(約七十五分)

蚊相撲(かずもう)

召使いを一人しか持たない大名。新たな家臣を召し抱えよう思い立ち、唯一家来の太郎冠者を遣いに出します。太郎冠者は海道(街道)で道行く男に声を掛け連れて帰り大名と面会させます。家来の嗜みとして、この男は相撲が得意と伝えると大名は大喜び。早速家臣に相応しい者であるか、その腕前を確かめようと試みますが...

(約三十五分)

杜若(かきつばた)

都から僧が三河国八橋を訪れる。沢一面に咲く杜若に見惚れていると、里女が現れここは杜若の名所で八橋という所だと語る。女は「唐衣きつつ慣れにしましあれば はるばるきぬる旅をしぞ思ふ」の古歌を詠じ、在原業平が読んだ歌だと教え、僧を宿へ案内する。やがて女は鮮やかな唐衣に冠を戴いた姿で現れる。唐衣は高子の後のもの、冠は業平のものと告げ、自分は杜若の精であると明かす。

杜若の精は、業平が歌舞の菩薩の化身として現れ、その和歌は非情の草木も救いに導く力を持つと語る。そして伊勢物語の恋物語を晴れやかに舞い東雲の光の中へと消えていく。

(約八十分)